

1. 日時 令和5年2月4日(土) 3～6時限目(10:40～15:10)
2. 場所 大阪教育大学附属天王寺中学校 2年生ホームルーム(ABCD教室)
3. 学年 2年生
4. 単元名 『多様なメディアと読者』

※「映像作品の工夫を考える」伝え合う言葉中学国語2 教育出版P186～189

5. 単元目標

- ・相手やメディアの種類に対応して物語の展開や表現の仕方に違いがあることを理解している。

【知識及び技能】

- ・様々なメディアの物語の構成や展開・表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。

【思考力・判断力・表現力等】

6. 単元について

(1)教材について

現代の中学生の多くがスマートフォンを所持しており、日常的に youtube 等で動画を視聴し、SNSで画像と文字が組み合わせられた投稿を閲覧して余暇を過ごす。学習者を取り巻く言語環境の変化に合わせて、国語科の学習でも、多様なメディアを扱った学習指導を実施する必要があるだろう。

学習者が物語を享受する際には小説やマンガ・動画など様々なメディアが展開されている。また、それぞれのメディアはその表現形態や収益化のシステムの違いを踏まえて、それぞれの表現形態に合わせた読者・視聴者をターゲットに商業活動を行っている。おそらく、映画には映画を好む視聴者が、マンガにはマンガを好む読者が…といったようにそれぞれのメディアを取り巻く読者にはある程度の傾向が見られるだろう。もちろん、大半の物語の作者は物語全体を貫くテーマや表現の美を求めて作品を制作していると思われるが、メディアが抱える受容者の質が異なることで、用いる表現に取舍選択を迫られる。

そこで、本単元では「天気の子」を題材として設定した。この作品は同一の物語が映画・マンガ・小説の3種のメディアで展開されている。まず、ひとつの物語が複数のメディアでどのように描き分けられているのかを明らかにする。その後、描き分けとそのメディアを取り巻く読者の特徴との関連を考察する。複数メディア間での表現の違いと意図を考察することで、受け手の実態に合わせて適切な表現を検討する姿勢を育むことができる。

(2)生徒の実態と指導の手立て

多様なメディアに関して今年度は以下のような学習を行っている。

7月 映像作品「言の葉の庭」「天気の子」カット割りやクロースアップなど映像表現の効果について

1月 マンガ作品「ワンピース」等を題材にコマ割りの効果やマンガの視点について

映像やマンガならではの表現について基本的な知識を持った上で、本単元では複数のメディアの表現を比較させたい。

生徒の学習に対する姿勢については、教師の指示を聞き与えられた手順通りに作業を行うことを得意とする学習者が多く存在する一方で、作品に用いられた諸表現を吟味して自ら立てた規準に基づいて考察を行うことは苦手とする学習者が多く見られる。班活動の際には積極的に教師が対話に参加し刺激を与えることで、協働的に考えを立ち上げる過程を経験させたい。

7. 単元の授業計画

第一時 映画・マンガ・小説それぞれの媒体を手にする読者や視聴者の特徴を自分たちの生活経験をもとに予想し整理する。

第二時 「天気の子」の冒頭部について、映画・マンガ・小説それぞれの媒体での展開や表現の工夫の違いを発見し、その意図を考察する。【本時】

第三時 対象となる受け手の特徴を想定し、商品広告ポスターを作成する。

8. 単元を総合した評価

	A	B	C
知識及び技能	メディアの種類によって物語の筋や表現の仕方に違いがあることに気付き、受け手に応じて表現を検討することができる。	メディアの種類によって物語の筋や表現の仕方に違いがあることに気付くことができる。	メディアを取り巻く受容者の有り様や、メディアの種類によって生じる表現の違いを認識することが難しい。
思考力・判断力・表現力等	物語の表現の意図について、根拠に基づきながら過不足のない考察をすることができる。	物語の表現の意図について、自分なりの根拠に基づいて考察することができる。	物語の表現の意図についての考察に飛躍が見られる。あるいは、根拠のない考察を行う。

9. 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時で整理したそれぞれのメディアを取りまく読者の特徴を整理する。 ・天気の子のあらすじを思い出す。 	
展開①(15分) 班活動	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに担当するメディアを割り振り、物語の展開や表現の違いを見つけ出す。 ・それぞれのメディアにおける表現の違いの意図を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班の意見交換の実態に応じて以下のように助言を行う。 ①メディアごとの表現の仕方の違いについて整理する。 ②表現の意図の考察にあたって「読者の興味を作品から離れさないためのもの」や「作り手が表現にこだわった部分」などの観点を与える。
展開②(15分) 個人活動	<ul style="list-style-type: none"> ・班での意見交換をもとに、担当したメディアの表現の特徴とその意図をロイロノートに自分の言葉で記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の言語化に悩む生徒に助言を行う。
結末(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考察を学級に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで提出された記録から比較的過不足ない考察をしているものを抽出する。